

第3回「児童英検 受験者(児童)を対象とした英語に関するアンケート」集計結果

「将来英語を使った仕事をしてみたい」子どもは6割弱(56.1%)

「将来、外国で仕事をしてみたい」子どもは約4割(40.3%)

財団法人 日本英語検定協会(本社:東京都新宿区、理事長 道明文夫、以下英語検定協会)は、2010年度の第3回児童英検公開会場試験を、2月6日に東京・名古屋・大阪で実施いたしました。

その際、児童英検受験者に対して行ったアンケート結果がまとまりましたのでお知らせいたします。このアンケートは、児童英検を運営する英語検定協会「児童英検課」が昨年発足させた『こども“ワクワク”英語プロジェクト』の一環として児童英検試験開催時に毎回実施しているものです。

【アンケート調査概要】

調査名: 児童英検 第3回「児童英検 受験者(児童)を対象としたアンケート」

調査対象: 第3回 児童英検 受験者(6歳~12歳)

会場: 東京・名古屋・大阪の公開試験会場

有効回答数: 144名中139名(回答率96.5%)

調査実施日: 2月6日(日)

回収方法: 児童英検 試験終了後実施(回答時間約15分。年齢によっては保護者の補助あり)

【ポイント】

● 将来、英語を使った仕事をしてみたい子どもが6割弱(56.1%)

質問4 将来英語を使った仕事をしてみたいですか?

6割弱の56.1%が「はい」と回答し、英語を使った仕事に関心のある子どもが多いことがわかりました。

● 英語が必要と思う職業は「スポーツ選手」が1位(18.0%)

質問5 英語が一番必要な職業は何だと思いますか?

「スポーツ選手」と回答した子どもが18.0%と最も多く、続いて「医者」(11.5%)「塾の先生」(10.8%)となりました。野球やサッカーワーク等に代表される様々なスポーツ選手の海外進出と活躍により、英語の必要性を感じているのかもしれません。また、質問6の将来なりたい職業の1位も「スポーツ選手」だったことから、将来国際的に活躍するスポーツ選手になることを目指して、英語の勉強に励む子どもが多くいることがうかがえます。

● 将来、外国で仕事をしてみたい子どもは約4割(40.3%)

質問7 将来外国で仕事をしてみたいと思いますか?

半数以上、55.4%の子どもが「いいえ」と回答しており、「はい」と答えた40.3%を上回りました。この数値は2010年に内閣府が実施した「労働者の国際移動に関する世論調査」の20代とほぼ同じ結果となっています。

【財団法人の概要】

[名称] 財団法人 日本英語検定協会 [所在地] 〒162-8055 東京都新宿区横寺町55番地

[理事長] 道明文夫 [設立] 1963年4月 [TEL] 03-3266-6555 (代)

[URL] (児童英検) http://www.eiken.or.jp/jr_step/index.html (英検) <http://www.eiken.or.jp/>

【お問い合わせ先】

●ニュースリリースの内容・児童英検について

財団法人 日本英語検定協会 事業開発室 塩崎 s-shiozaki@eiken.or.jp TEL:03-3266-6121

内藤 k-naito@eiken.or.jp TEL:03-3266-6563

●ご取材等をご検討いただける場合は下記までご連絡ください

広報窓口: 有限会社アネティ 大石 (oishi@anety.biz)、真壁 (makabe@anety.biz) TEL:03-5475-3488

《アンケート結果》

【調査概要】

調査名：児童英検 第3回「児童英検 受験者（児童）を対象としたアンケート」

調査の対象：6歳～12歳

※公開会場での受験の場合は、円滑な運営と安全のため、受験資格を『小学生以上』と定めています。

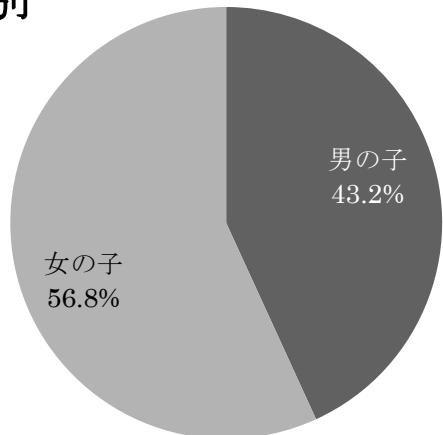
会場：東京、大阪、名古屋の公開試験会場

有効回答数：144名中 139名（回答率 96.5%）

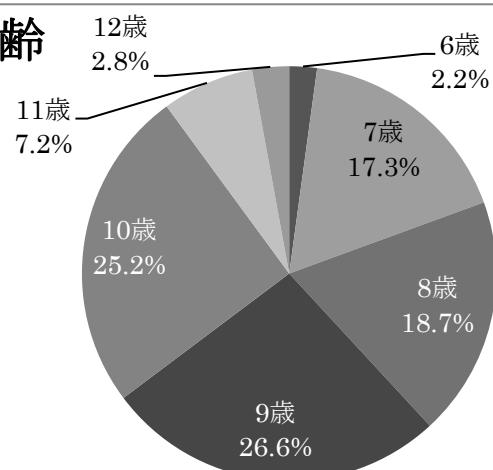
調査実施日：2011年2月6日（日）

調査の方法：児童英検 試験終了後実施（回答時間約15分。年齢によっては保護者の補助あり。）

性別



年齢



児童英検とは？

児童英検は、(財)日本英語検定協会が主催する子どものための「育成型」テストです。

子どもの成長に合わせた3つのグレードを設定し、英語学習の入門期にもっとも大切と

考えられているリスニングを中心に構成されています。児童の英語能力の調査・研究を目的として1994年に創設し、2010年までの累計志願者数は120万人を突破しています。

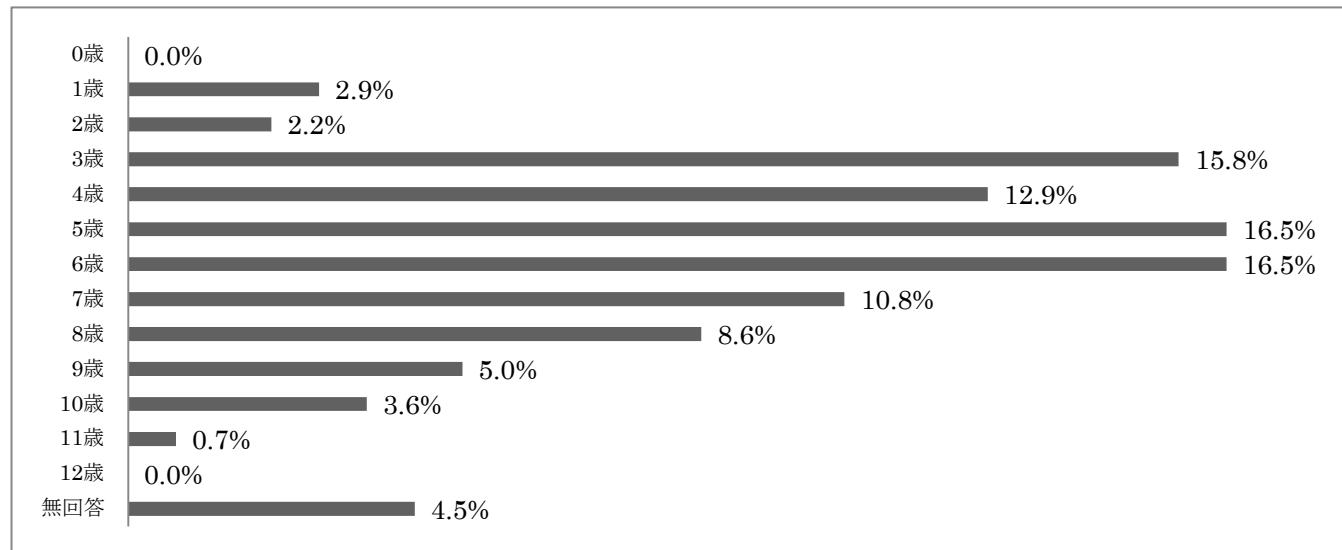
昨今の小学校英語の広がりとともに、「客観的な外部評価」や「学習の動機づけ」として児童英検を活用する小学校が増えています。英語活動の成果をより客観性の高いデータで検証できる「特別版」児童英検は、特に先進的な英語教育が行われている地域で採用され、すでに全国21地区の特区・研究開発校が活用しています。必修化が始まり、新しい試みの成果・検証は、ますます注目が高まつてくると思われます。

※『こども“ワクワク”プロジェクト』とは

『こども“ワクワク”英語プロジェクト』は、英語に親しみを持ち、ワクワクしながら積極的に英語でのコミュニケーションを楽しめる子どもたちを育てるために2010年7月に発足したプロジェクトです。

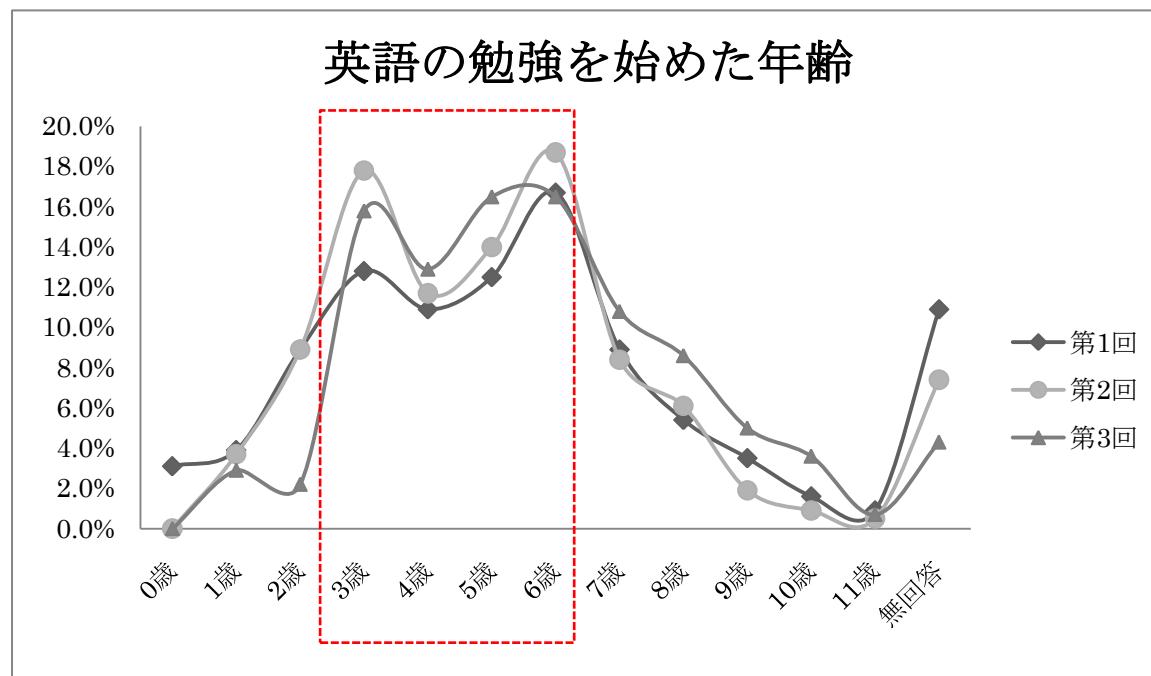
このプロジェクトはこれから時代を担う子どもたちが、“ワクワク”しながら英語を学び、広い視野を持って世界に羽ばたいて行ってほしいという願いを込め、英語学習の初期段階から、「英語と楽しく触れ合う」ことを目的としています。子どもたちはもちろん、保護者の方々をはじめ教育関係者などを対象に、英語に関するアンケート調査の実施、分析、結果発表、情報発信、セミナーやイベントなど、さまざまな活動を行っています。

質問1 何歳のときから英語の勉強を始めましたか？



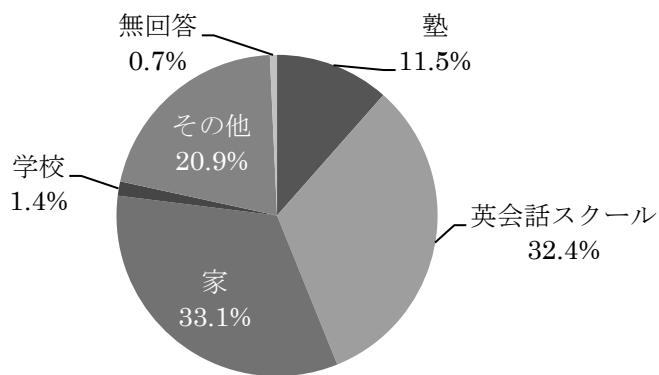
「5歳」「6歳」からと回答した子どもが16.5%と最も多く、続いて、「3歳」からが15.8%となりました。小学校3年生(9歳)までにはじめている受験者が全体の91.2%を占めており、早い時期から英語学習を始めていることがわかりました。

【参考1】(2010年度アンケート 第1~3回の傾向)



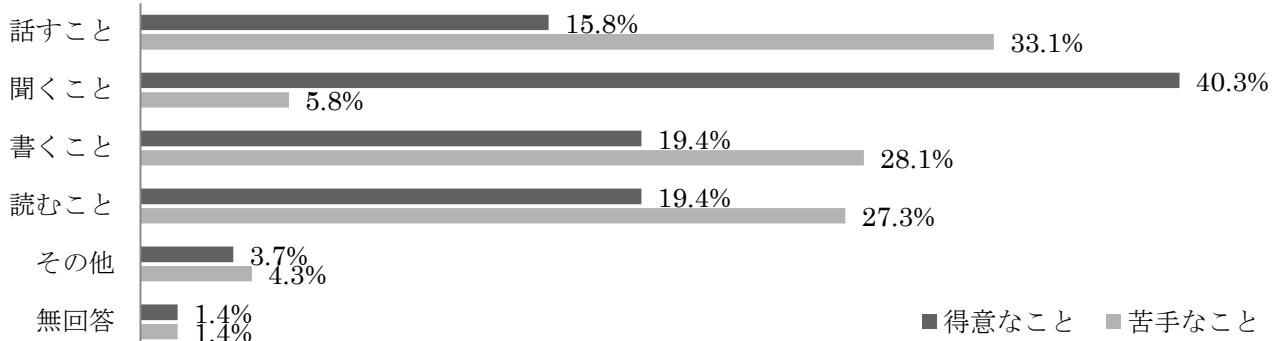
2010年に実施した第1回(6月27日)、第2回(10月31日)と今回の結果を合わせて傾向を見てみると、第3回で若干「2歳」との回答が減ったものの、全体を通じて3歳～6歳、特に「3歳」と「6歳」から英語学習を始める子どもが多いことがわかりました。

質問2 どこで英語を習うことが多いですか？



「家」が 33.1%と最も多く、続いて「英会話スクール」(32.4%)、「塾」(11.5%)となりました。塾や英会話スクールだけではなく、家庭学習の比率が 3 割以上占めていることがわかりました。児童の英語教育においては「英会話スクール」や「塾」に頼らず、保護者が教えている家庭も多いことがうかがえます。

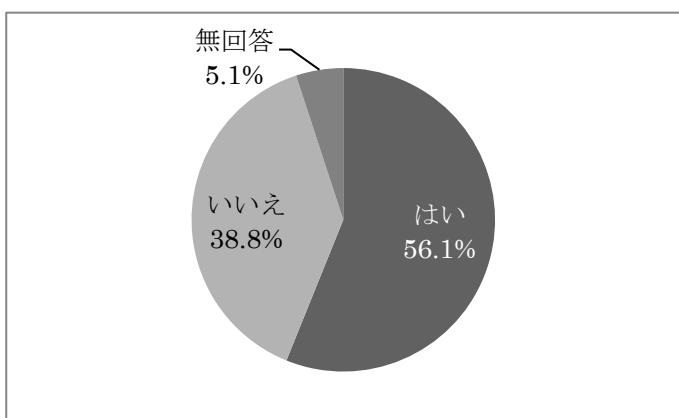
質問3 英語を習っていて、一番得意なこと・一番苦手なことは何ですか？



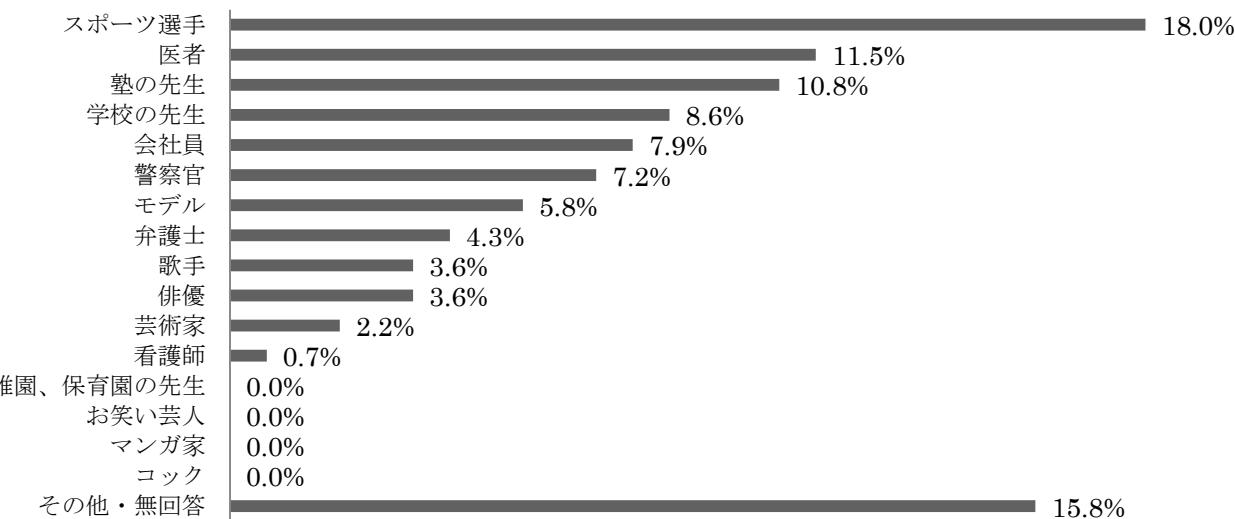
「話す」「聞く」「書く」「読む」の 4 技能のうち、最も得意なことは「聞くこと」(40.3%)、最も苦手なことは「話すこと」(33.1%)という結果となりました。4 技能それぞれの「得意」と「苦手」の比率を比較すると、「得意」が 40.3%に達した「聞くこと」については「苦手」とする回答がわずか 5.8%しかなく、ほとんどの子どもが抵抗感を持っていないことがわかります。一方、「聞くこと」以外の 3 技能では全て「得意<苦手」となりました。特に最も「苦手」が多かった「話すこと」を「得意」とする子どもは 15.8%で 4 技能中最も低くなっています。コミュニケーション重視の児童英語教育に課題を残す結果となりました。

質問4 将来英語を使った仕事をしてみたいですか？

6 割弱の 56.1%が「はい」と回答し、英語を使った仕事に関心のある子どもが多いことがわかりました。



質問5 英語が一番必要な職業は何だと思いますか？

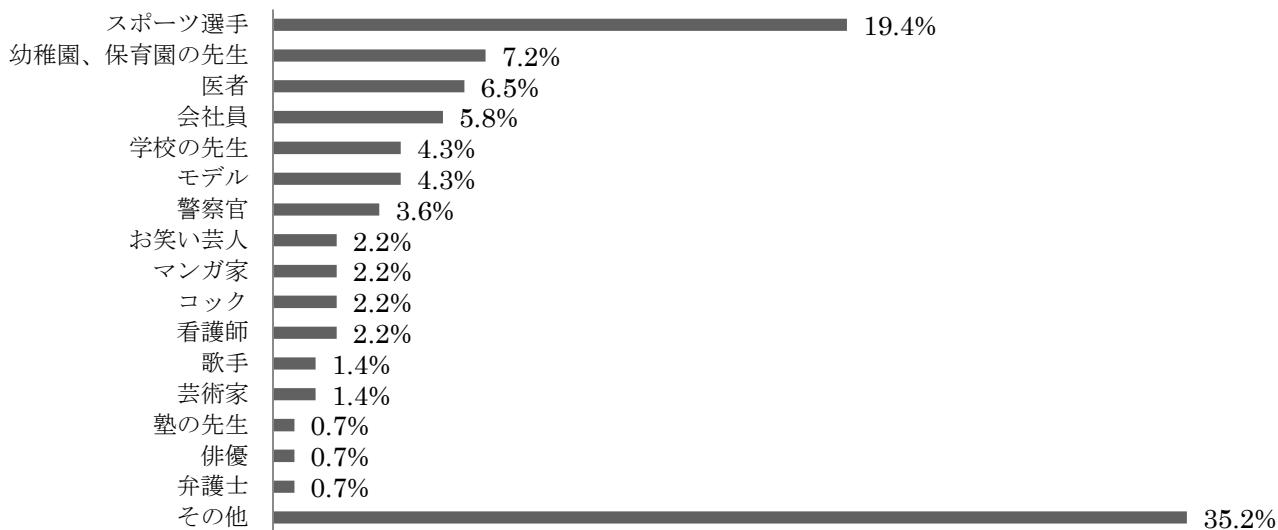


※「幼稚園、保育園の先生」「お笑い芸人」「マンガ家」「コック」については、選択肢として使用したため、0.0%ですが、結果として掲載しております。

「スポーツ選手」(18.0%) が最多の回答となり、「医者」(11.5%) 「塾の先生」(10.8%) と続きました。野球やサッカーに代表される様々なスポーツ選手の海外進出と活躍により、英語の必要性を感じているのかもしれません。「モデル」(5.8%) や「歌手」「俳優」(3.6%) といったアーティスト系はもちろん、「会社員」(7.9%) や「警察官」(7.2%) といった職業にも必要性を感じているようです。

その他では、「パイロット」「通訳」「英語の先生」などが挙げられていました。

質問6 将来なりたい職業は何ですか？



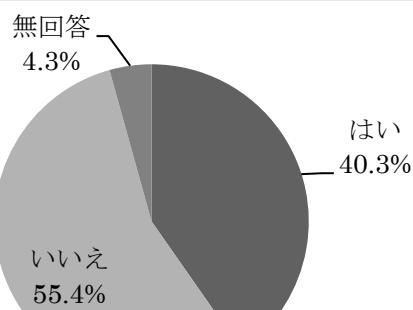
スポーツ選手が 19.4% と最多となり、「幼稚園、保育園の先生」(7.2%)、「医者」(6.5%) と続きました。その他の内訳を見てみると、「パイロット」や「ピアノの先生」の他に、「パーティシエ」「ディズニーランドのキャスト」「建築士」など専門的な職業を希望している子どもがいることもわかりました。

質問5 英語が必要な職業の 1 位も「スポーツ選手」だったことから、将来国際的に活躍するスポーツ選手になることを目指して、英語の勉強に励む子どもが多くいることがうかがえます。

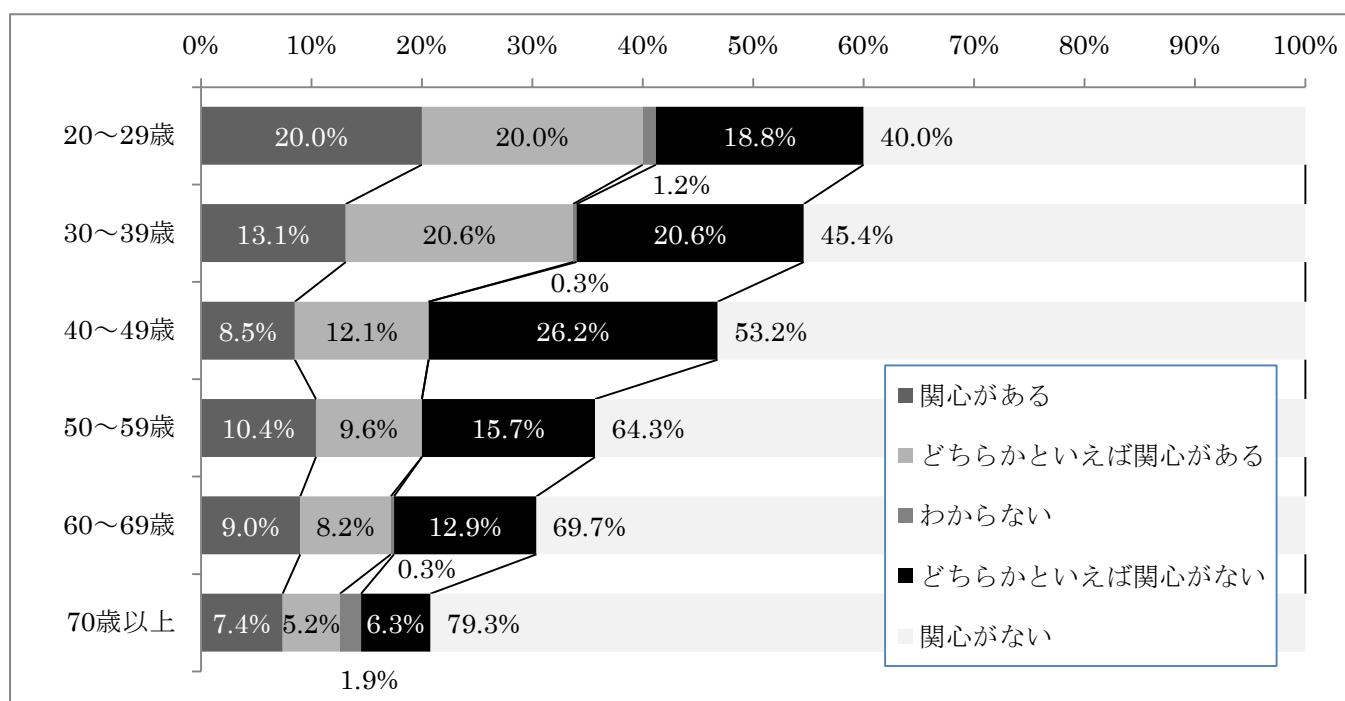
質問7 将来は外国で仕事をしてみたいと思いますか？

「いいえ」が 55.4%と半数以上の回答があり、「はい」と答えた 40.3%を上回りました。

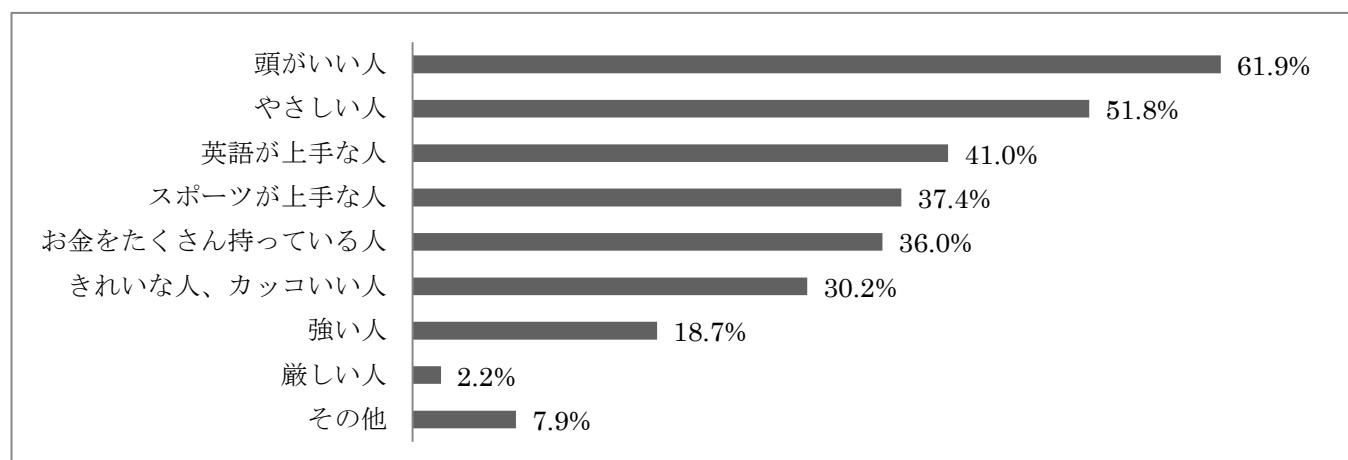
この数値は 2010 年に内閣府が実施した「労働者の国際移動に関する世論調査」の 20 代とほぼ同じ結果となっています。今後、グローバル化がますます進むことを考えると、子どものころから海外への関心をより高めていくことも課題になると思われます。



【参考】内閣府 労働者の国際移動に関する世論調査「外国での就労への関心」より

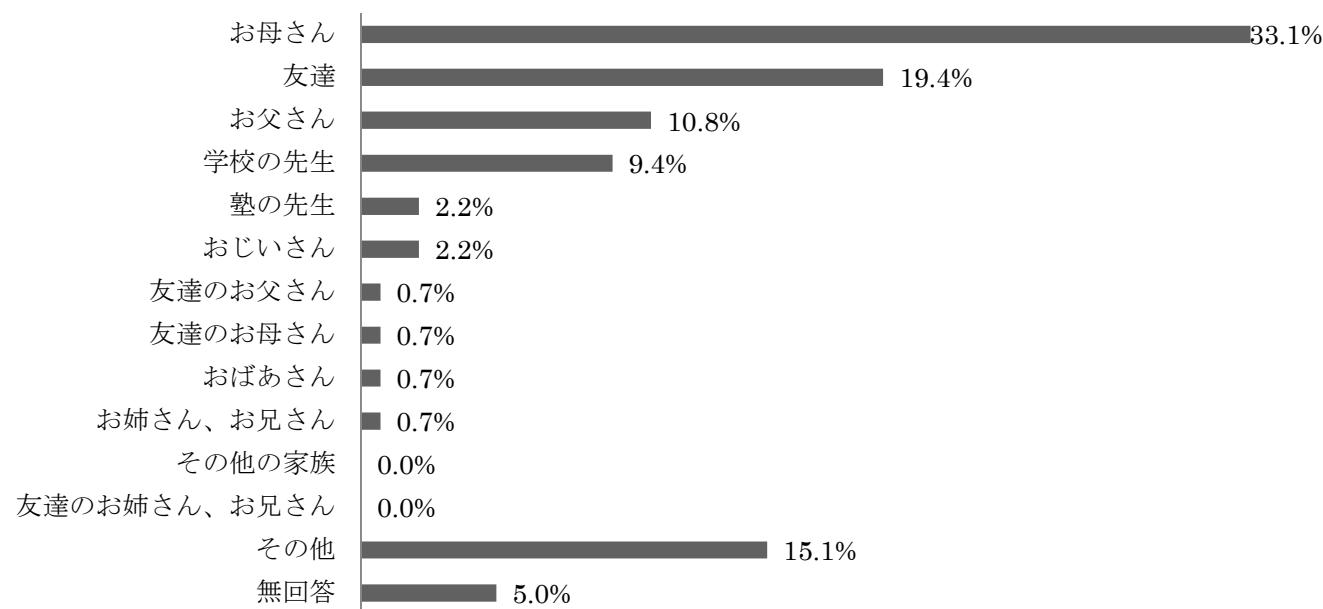


質問8 将来どんな大人になりたいですか？（複数回答）



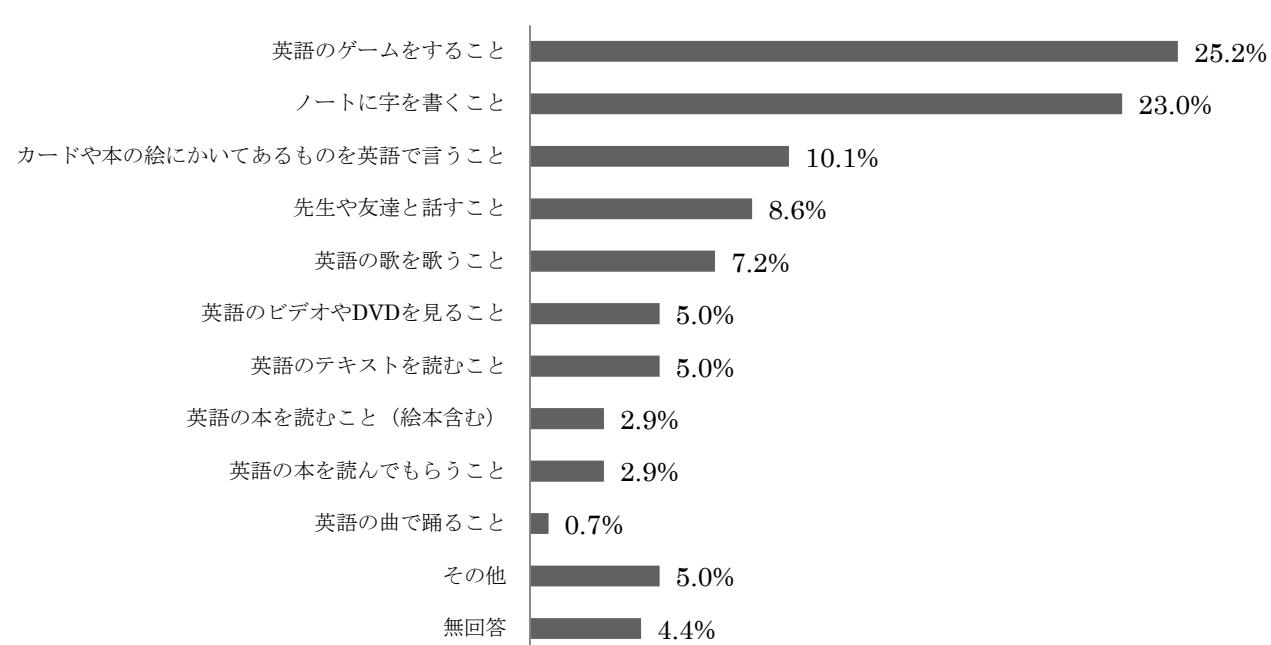
「頭がいい人」が最も多く、61.9%となりました。続いて「やさしい人」(51.8%)、「英語が上手な人」(41.0%)となっています。英語を学んでいるなかで、多くの子どもが将来上手になりたいと思っていることがわかりました。

質問9 あなたの近くにいるあこがれの人は誰ですか？



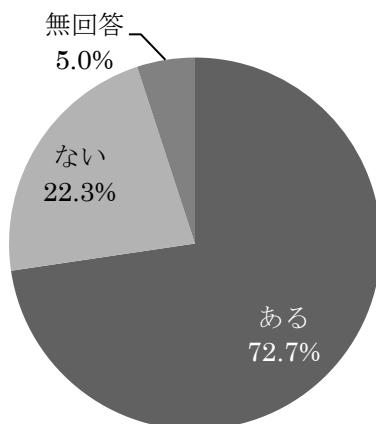
「お母さん」との回答が最も多く、33.1%となりました。「友達」が19.4%と続き、「お父さん」は10.8%と第3位でした。小学生にとっては、友達もあこがれの対象となっている、興味深い結果となりました。

質問10 英語の授業で一番好きなことはどんなことですか？



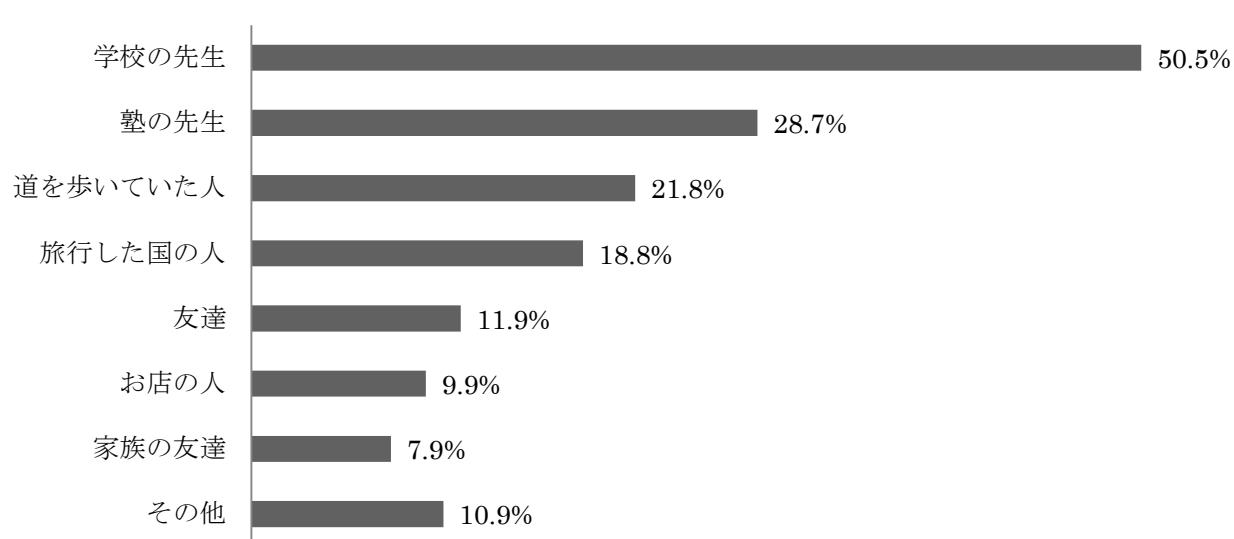
「英語のゲームをすること」が25.2%と最も多く、続いて「ノートに字を書くこと」(23.0%)となりました。**質問3**では、「書くこと」について、『得意』と答えた子どもが『苦手』と答えた子どもよりも少なかったものの、実際の学習時において、「字を書くこと」について好きと感じているようです。

質問 11-1 外国の人と英語で話をしたことがありますか？



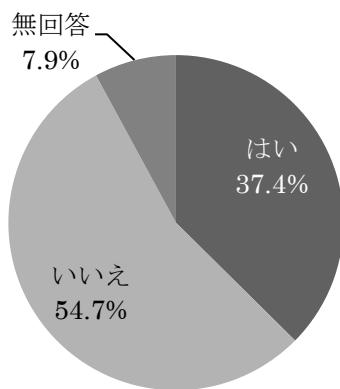
多くの子どもが「ある」(72.7%)と回答しています。

質問 11-2 (質問 11-1 で「ある」と答えた方) その外国人は誰ですか？ (複数回答) n=101



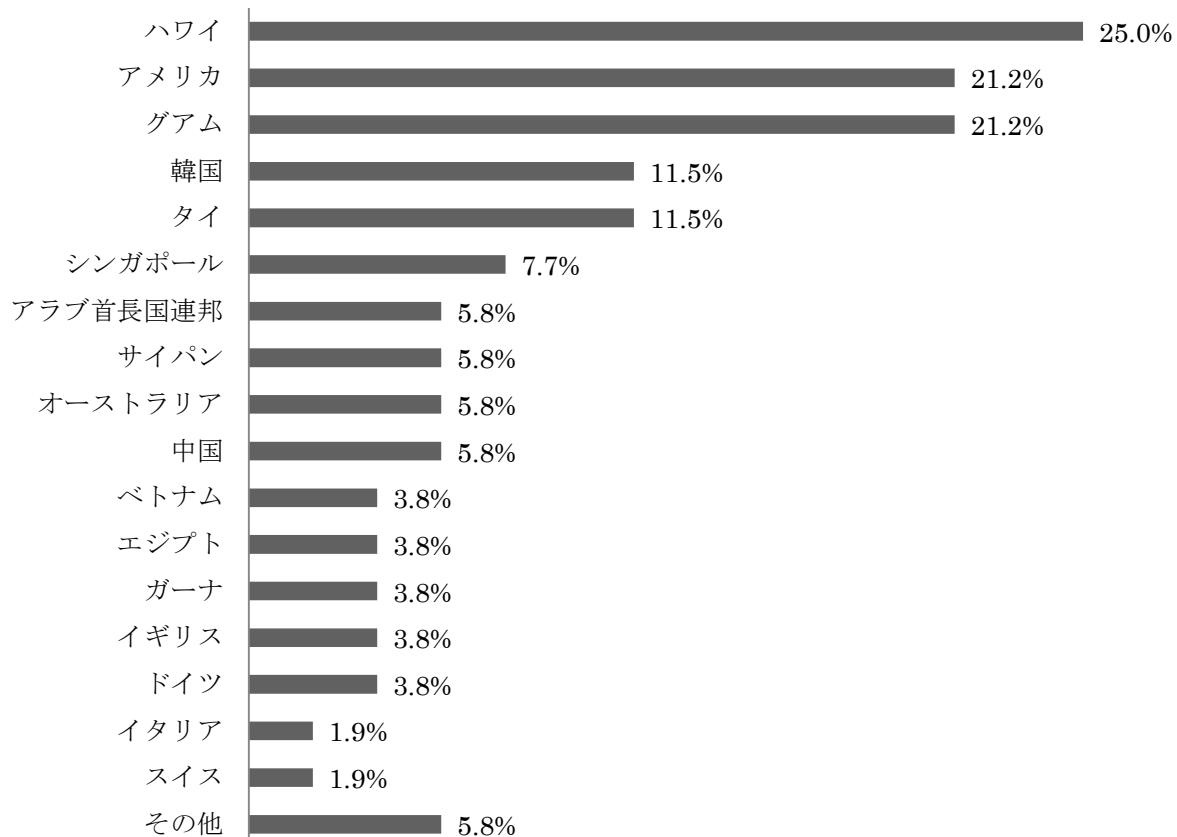
質問 11-1 で「ある」と回答した子どもにその外国人は誰か尋ねたところ、「学校の先生」(50.5%) が最も多く、続いて「塾の先生」(28.7%)となり、学校や塾で外国人の先生の授業を受けている子どもが多くいることがわかりました。また、「道を歩いていた人」という回答も 21.8%おり、道行く外国人と会話をした実践的な経験を持つ子どももいることもわかりました。

質問 12-1 海外旅行をしたことがありますか？



「いいえ」という回答（54.7%）が、「はい」という回答（37.4%）を上回ったものの、小学生のときから海外旅行を経験している子どもが約4割に達していることがわかりました。

質問 12-2 (質問 12-1)で「はい」と答えた方 どこの国・地域ですか？ (自由記述) n=52



「ハワイ」が 25.0%と最も多く、続いて「アメリカ」「グアム」（21.2%）となりました。英語圏だけではなく、アジア・オセアニア・ヨーロッパ・アフリカと旅行先は多岐にわたっていることがわかります。